

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490600014		
法人名	医療法人 末広		
事業所名	グループホーム 無量寿		
所在地	大分県臼杵市大字末広915番地		
自己評価作成日	令和6年7月17日	評価結果市町村受理日	令和6年10月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	事業所の概要 グループホーム 無量寿 大分県 介護事業所・生活関連情報検索「介護サービス情報公表システム」(mhlw.go.jp)
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古国府壱番館 1F
訪問調査日	令和6年9月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人お一人を尊重し、その方にあった良いケアを目指し安心安全な生活ができる様支援しています。ふれあいを大切に笑顔で生活が送れるよう努めています。急変時にもすぐ主治医の診察が受けられ医療連携が優れている点はご家族様も安心されているようです。毎日のレクや季節行事も充実しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、法人関連施設の一つであり、組織的に体制が整い安定した介護業務ができています。緊急時を含めた24時間医療連携体制が日常の医療・健康管理及び終末期対応への安心と信頼に繋がっています。法人研修や事業所研修が組み込まれており、管理者は研修案内について職員に提示し、自主的に申請し参加しています。利用者が、毎日張り合いや喜びのある日々を過ごすために、個々の趣味や力量を判断し工夫を重ねたレクリエーションが組まれており、作品はホールや廊下に飾られ、訪れた家族とともに利用者・職員と話の種になっています。職員はアットホームな雰囲気の中で明るく家族のように利用者に接しており、家族の協力で外出・外泊・墓参り等に出掛ける支援を行っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念がいつでも見えるように壁に貼っている。今年度の目標も皆で考え実践できるよう努力している。	ホームの年間目標とユマニチュード目標(職員個々の目標)・ホームの理念とともに、事務室とホールに掲示し意識付けを行っています。年度末の会議では一人ひとり振り返りを行い、実行・実践出来ているか評価しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	庭の木の手入れや草取りなど地域の方が行ってくれている。コロナ禍の為ボランティア訪問は控えていたが状況をみながら少しずつ再開していきたい。	これまでコロナの影響もあり感染予防の観点から交流を控えていましたが、少しずつ再開しています。隣接する病院の職員と協力し「野だて」を楽しむ様子や近隣の方との挨拶や会話等地域交流を始めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月発行する無量寿便りや白川病院の広報誌などで多くの地域の方々に発信している。今後は状況をみながら秋祭りなどでの交流も考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月毎に会議を開催している。ご意見やご要望などは職員全員に伝えサービス向上に活かせるようにしている。	2ヶ月毎に対面での運営推進会議を開催しています。近況報告・活動報告・ヒヤリハット・今後の取り組み等を説明し、参加者との意見交換を行い頂いた意見は、サービスに反映させています。弁護士(4ヵ月毎)・家族代表(順番で)の参加もあります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただきご意見をいただいている。研修会も参加し、不明な事や相談事がある時は担当の方に連絡しご意見・助言をいただいている。	運営推進会議に市の担当者の参加があり、意見交換を行っています。報告や連絡等はFAXやメールで随時行い必要に応じて市役所に出向き、相談やアドバイスを頂き協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体病院の委員会や研修会などで情報共有している。毎月のケアカンファレンスで全利用者様のケアについて考えている。	法人全体の研修会に参加するとともに、事業所独自の「虐待防止委員会」を設置し、全職員で指針・マニュアルを作成し計画的に勉強会を行っています。事例検討やスピーチロック等職員が気付かない精神的虐待はありませんが、意識し合うよう心掛けています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	令和6年4月より独自で委員会を立ち上げ虐待防止について職員全員で考えていき意見交換を行っている。今後は母体病院の委員会や市の研修会などで情報共有していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会がある時は参加している。必要な時は行政の方や弁護士さんに相談もできる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、事務職員が十分丁寧に説明し不安や疑問点が無いよう配慮している。心配な時はいつでも電話でもいいことを伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン作成時やご家族の方への連絡時にご意見やご要望をお聞きしている。運営推進会議にもご家族に順番に出席していただいてご意見をお聞きしている。	面会や電話連絡時に、意見や要望を聞くようにしています。利用者の、日常の会話から汲み取り、把握した情報は職員間で共有し、必要に応じて話し合いを持ちケアに、反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃よりスタッフの意見や考え、悩みなどよく聞くようにしている。毎月のケアカンファレンスでは全スタッフから意見交換を行いより良い運営ができるよう努めている。	日頃から意見や要望・提案等が出しやすい環境にあり、出された要望等は職員間で共有し、話し合いをしてケアに反映しています。管理者は必要に応じて個人面談を実施しており、職員の離職率の低さに繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は職場の様子を見に来て下さり職員に声をかけ配慮して下さっている。勤務状況などはいろいろ相談にのって下さり、各種手当など配慮して下さる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会、勉強会への参加を勧めてくれ資格取得への協力や勤務調整をしてくれる。スキルアップできるよう配慮して下さっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネの研修会などで同業者と交流する機会がある。いろいろな研修もZOOMでの交流で情報収集しやすい所を学び職場に活かす努力を行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は安心して話ができるような雰囲気作りに努めご本人の話を十分に聞き少しでも不安が軽減でき信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時よりご家族の話をよく聞き困り事や不安、要望を十分話していただけるようにしている。いつでも遠慮なく電話でも連絡していただけるようお願いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	精神科医である施設長が相談に応じ診察し、その他のサービス利用も含め本人やご家族が一番必要とされる支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話、行事、レク、食事など一緒に楽しみながら生活を共にしている。出来る事を手伝っていただき、わからない事は教えていただき共に必要とされ合うような関係性作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話などで近況を報告し毎月無量寿便りや写真を送り様子をお伝えしている。ケアについてはご家族様からご意見や情報をきき共に支援を考えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は予約制で土・日も出来るようにしている。電話や手紙などでも関係が途切れないよう支援している。家族からもお礼の手紙や年賀状や暑中見舞いなども届く。	電話の取り次ぎや手紙のやり取りの支援・家族との外出・花見・ドライブ等馴染みの人や場所の関係が途切れないよう支援しています。利用者との会話の中に、馴染みの場所を話題に入れるよう心掛けています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、行事などに職員と一緒に入り時間を共有し皆さんが楽しく関わりあえるよう支援している。必要な時は席やテーブルの工夫など配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方やご家族に出会った時は声かけをしその後の様子を伺ったり何か気になることや相談があれば何うように務めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人に声かけをし、関わりの中で思いや希望の把握に努めている。日々のケアで気付いたことを共有したり、毎月のケアカンファレンスで情報共有し把握に努めている。	入所時のアセスメント・家族の情報・日常会話の中から意向を把握するとともに、意思表示の困難な方には本人本位に検討しています。把握した情報は毎月のケアカンファレンスにて職員間で共有しケアに繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人やご家族様よりお話を伺ったり主治医やケアマネより情報収集に努めている。入居後も関わりの中で情報把握している。各ファイルに情報がありスタッフは情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で行動パターン、健康状態、食事、睡眠、排泄の状態などお一人お一人の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングし、職員全員でのケアカンファレンスで課題とケアのあり方を話し合い利用者様やご家族の意向に沿ったケアを考え介護計画を作成している。	毎月モニタリング及びケアカンファレンスを行い、現在の状況・今後の方針等検討しケアプランを作成しています。見直しは6ヶ月毎に見直しを行い、状態の変化に応じて臨機応変に見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や身体の変化等ケア記録や日誌に記録し、申し送りやノートでも情報共有しケアプランやケアに反映できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の特別な状況などで急な面会や外出・休日などの面会も出来るだけ希望に沿えるようにしている。母体病院の音楽療法は毎月一回、陶芸教室も毎週参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの制限も緩和され面会や外出・外泊も行えるようになった。4月は臼杵公園にお花見に行ったり、6月はボランティアの方による野点をして楽しむことができた。今後も外出やボランティアの慰問も考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に主治医による診察や検査など受けている。体調不良時はすぐに受診できる。歯科は希望時に往診してもらえる。その他必要に応じてご家族、本人の希望時に受診できるよう支援している。	医療体制は充実されています。急変があった場合も、迅速に医療機関と連絡が取れる体制が整えられています。主治医だけでなく、専門医への受診支援も必要な時は家族の協力を得ながら臨機応変に対応されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームに看護師が一名いてスタッフはいつでも異常を報告・相談できる。外来看護師との連携も出来ており、必要時は迅速に報告し受診することができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に医療連携シートを作成し病院に情報提供を行い、その後も医師や師長などと情報交換を行っている。退院時も主治医や師長から連絡があり適切な時期に退院できるよう相談が出来支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時に看取りに関する指針に同意をいただいている。重度化した場合は主治医が状況を説明しご本人、ご家族の意向を尊重し出来る限りご本人にとってより良い対応を行えるよう支援している。	終末期に向けた取り組みが必要になってきた時は、入所時に同意を頂いていますが、体調の変化等に合わせて利用者にとって一番良い支援を、家族・主治医・施設で話し合いを重ね、支援に取り組まれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体病院の研修会やケアカンファレンスなどで急変時の対応について勉強している。マニュアルもあるがいつもと何か違うという時にはすぐに報告することを指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回母体病院と合同で避難訓練を行っている。災害時には連携して対応できるよう訓練している。近隣の方にも協力をお願いしている。	様々に想定された、避難訓練を定期的に行っています。利用者と一緒に避難するだけでなく、職員への連絡や近隣の方の協力体制等に取り組まれ、備蓄も常に見直し支援に繋がっています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	優しい言葉遣いを心がけ、お一人お一人の人格を尊重しながらプライバシーを損ねないように対応に気を付けている。	定期的に研修が行われ、職員全員で常に意識しながら利用者に寄り添った支援に、取り組まれています。利用者の様々な変化を、職員全員で共有され支援に繋げています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で声かけ、コミュニケーションを取り信頼関係を築き、本人が安心して思いを表現したり自己解決できるよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調や気分、気持ちを汲み本人のペースに合わせ自由に楽しく過ごしていただけるよう支援している。安全面に配慮し見守りを行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師の方に来てもらいカットしてもらっている。部屋に鏡があり整髪や化粧水などつける方もいる。男性は毎日髭剃りをしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理レクでホットケーキ、お好み焼き、大学芋、らっきょう漬など職員と利用者が一緒に作っている。また好みのメニュー(うどん、そば、パンなど)も取り入れている。	利用者個々の機能を生かし、全員で食事を楽しむための、様々な取り組みをされています。食事の際の雰囲気づくりを大切にされ、様々な工夫された取り組みをされています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の身体状態に応じて食事形態を工夫している。食事量や水分量の観察を行い少ない方にはいろいろな補食を行っている。水分補給もこまめに行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に利用者様一人一人に合った歯ブラシ、口腔ティッシュ、口腔ケアジェル等用いて行っている。口腔ケア委員会などの情報を共有して食前の口腔ケア体操や食後のケアに努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の身体状態や排泄パターンにより各自に適した介助ができるよう支援している。トイレの声かけやオムツの方でも適宜トイレ介助したり、夜間はポータブルトイレを使ったりとその方に合わせてスムーズな排泄ができるよう努めている。	利用者の様子を職員全員で共有され、個々に沿った支援を大切にされています。その時々体調や気分等を大切にされ、利用者個々の機能を最大限に生かす取り組みに、努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維やヨーグルト、バナナ、水分量にも気を付けている。毎朝体操を行っている。排泄パターンを把握し排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の身体状態に合わせて入浴介助を行っている。最近新設された気泡浴には寝たきりの方もと喜んで利用している。声かけをして拒否された時は無理強いをせず日を変えて介助している。	全ての利用者に、入浴を気持ちよく楽しんで頂けるよう、個々に沿った入浴を支援しています。その日の体調や気持ちに寄り添い入浴後のケアに努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や希望により自室で過ごしたりベッド臥床したり日向ぼっこをしたりしている。夜間は室温、照明、音、リネンや衣類の調整等に留意している。希望時は水分補給も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のファイルに薬情報のファイルがありいつでも確認できる。与薬チェックシートを用いて誤薬の無いよう服薬介助している。臨時で薬が処方された時は状態観察を行い変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事レクや季節の作品作り、音楽療法、陶芸、料理レク、外出レク等で楽しみや気分転換の支援を行っている。誕生日にはカードやプレゼントもある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人やご家族の希望で外出や外泊を行う方もいる。先日はバスでお花見に行った。今後感染症の状況に応じて外出レクも増やしていこうと思っている。	コロナ禍から少し落ち着いた状況の中、家族の協力を得ながら外出支援に、取り組まれています。日常的な外出も、天候等を考慮され日光浴など、その時々出来る支援を工夫しながら取り組まれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人やご家族の希望のある時は多すぎない程度の金額を所持している。ドライブレクで買い物をすることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内の電話や本人持ちの携帯電話でやり取りできるよう支援している。年賀状や暑中見舞いのハガキも書いている。家族の方からも届く。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下にも長椅子を置いたり壁には作品や季節の飾り付けや行事レクの写真などを飾っている。庭に咲いていた花をテーブルに飾ったり、母の日にはカーネーションを一人ひとり花瓶に飾って喜ばれた。	明るく清潔感があり、安全・安心に配慮された共用空間づくりに取り組まれています。利用者の気分や様子に、迅速に対応される体制を整えています。壁面づくりや季節のお花を飾ったり、利用者と一緒に楽しみながら、居心地よい共用空間づくりをされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や居間にソファや長椅子がありそこでくつろいだり何気ない会話をされている。長いソファでは皆で日向ぼっこをしてウトウトしていることが多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自の部屋に手紙や写真を飾ったり花を飾ったりしている。テレビや家具を持ち込まれている方もおられご本人らしい生活ができるように努めている。	利用者個々の方が、馴染みの物を持ち込んだり、家族の協力を得ながら居心地よく過ごして頂けるよう様々に工夫されています。その人らしく、居心地よく安全・安心に過ごして頂けるよう、柔軟に対応される体制を整えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内はバリアフリーで手すりも多く独歩、歩行器、車椅子の方が皆様安全に行き来できるようにしている。トイレや居室のドアにはわかりやすく目印を付けている。ポータブルトイレを設置している方もいる。		